



## 付録 B : ファイルの復元

バックアップファイルを作成した後は、必要に応じてファイルを復元できます。復元はオフラインモードで行います。アクティブコール、IMAP、VoiceViewセッションは終了し、新しいコールは受け付けられません（自動応答へのコールは行えます）。復元は、電話加入者の利用が最も少ない時間に行ってください。

**show backup server** コマンドを使用して、復元するファイルのバックアップ ID を見つけます。

ファイルの復元の詳細については、『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions](#)』および GUI オンラインヘルプを参照してください。

### 手順の概要

1. **show backup server**
2. **offline**
3. **restore id backupid category {all | configuration | data}**
4. **reload**
5. **show backup history**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<b>show backup server</b>  例： se-10-0-0-0# show backup server	データおよび設定のバックアップファイルを一覧表示します。復元するファイルの改訂番号は、バックアップ ID フィールドで確認します。
ステップ2	<b>offline</b>  例： se-10-0-0-0# offline	オフラインモードにします。アクティブなボイスメールコールはすべて終了します。

コマンドまたはアクション	目的
<p>ステップ3 <b>restore id <i>backupid</i> category {all   configuration   historicaldata   data}</b></p> <p><b>例：</b>  se-10-0-0-0(offline)# restore id 22 category all  se-10-0-0-0(offline)# restore id 8 category configuration  se-10-0-0-0(offline)# restore id 3 category data</p>	<p>バックアップ ID の <i>backupid</i> 値と復元するファイルのタイプを指定します。</p>
<p>ステップ4 <b>reload</b></p> <p><b>例：</b>  se-10-0-0-0(offline)# reload</p>	<p>Cisco Unity Express モジュールをリセットして、復元した値を有効にします。</p>
<p>ステップ5 <b>show backup history</b></p> <p><b>例：</b>  se-10-0-0-0# show backup history</p>	<p>バックアップ手順と復元手順、およびこれらの操作が成功したか失敗したかを表示します。</p>